

40. 歯科口腔領域におけるプロスポーツ選手と高校生競技者の比較(一般講演)(東日本歯学会第14回学術大会(平成8年度総会))

著者名(日)	秋月 一城
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	15
号	1
ページ	58
発行年	1996-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00008155/

歯牙の形態異常の原因には系統発生的なもの、病理学的なもの、突然変異によるものなどが考えられている。一方、多数歯の埋伏は鎖骨頭蓋異骨症などの全身疾患、遺伝あるいは内分泌異常や大理石病などの顎骨に異常をきたす特殊な骨疾患に関連してみられることが知られている。

今回われわれは、歯牙形態に著しい異常を伴った多数の埋伏歯を認める、極めて稀な1症例を経験し、病理組織学的検索を行ったので、その概要を報告した。

(結果)

- ① 摘出歯牙は、外形的異常の程度には差を認めたが、左右同部位で類似性を有し、病理組織学的には歯牙構成組織の位置的關係はおよそ保たれていた。
- ② エナメル小柱や象牙細管は規則正しく走行してお

り、構造上の異常は認められなかった。

(考察)

- ① 発生原因を検討すると、摘出歯牙は、形態異常のみを認める事から、歯胚形成期の形態分化期に相当する時期に、何らかの因子が加わった可能性が強く考えられた。
- ② 歯牙埋伏の原因としては、萌出運動と密接に関連しているとされる歯根の形態異常が考えられた。
- ③ 家庭歴や遺伝学的検査から、全身的な要因に相当するものは認められず、また、現病歴等からは、局所的環境因子の影響を受けた可能性は少ないと思われた。しかし、歯牙外形が左右側同部位で対称的に類似性を有し、かつ広範囲で多発的に生じていることから、全身的な因子の関与を否定しきれなかった。

40. 歯科口腔領域におけるプロスポーツ選手と高校生競技者の比較

秋月 一城

(社会保険中央病院歯科口腔外科)

近年スポーツを健康維持の手段として愛好する人口は増加しているが口腔内の健康管理に対する認識は低いのが現状である。そこで、スポーツ歯科学推進の基礎資料とするを目的に口腔内の健康観について競技スポーツの特徴的なプロ選手と高校生競技者の意識の違いを調査、比較した。調査期間は平成7年2月17日～平成7年12月8日。調査方法は、直接記入アンケート方式でプロ選手(野球24名、サッカー26名)と高校生競技者(野球72名)を対象とした。

結果 1. 体調は両群ともによく調整されており、日常生活に支障をきたすものはなかった。主食の摂取は両群ともに良くされているようであるが、偏食や間食は高校生に多く見られる傾向にあった。2. 歯列や咬合の状態など口腔内の健康の調査(記入者の自己判断による)では「わからない」と回答したものが両群ともに約30%に見られた。これは今後の歯科衛生指導に連動して変化すると思われた。3. ブラッシング指導を受けた経験が

ないにもかかわらず、今後も指導を受けたくないと回答したものや歯科の定期検診受診者が少ないなど、両群に差がなく歯科口腔領域の健康維持に関する意識は低かった。4. 顎顔面領域の外傷では口唇裂傷や歯牙破折といった口腔内組織の受傷が比較的多かった。5. 競技力と歯科口腔領域の関連についての認識は両群ともに低かった。

考察 ある種のコンタクトスポーツでは安全性の確保を目的として競技中のマウスガードの使用が義務付けられている。また、トレーニング期間中では、栄養の消化吸収を高めるために口腔内の健康管理が注目されつつある。口腔内の健康を維持することは一般生活のみならず、スポーツ活動を満喫したり、運動遂行能力を高めることと密接な関係があるものと思われる。しかし、その重要性に対する認識は充分浸透しているとは思えない。それらを普及、啓蒙していくことはわれわれ歯科医の使命であると考えた。